

## 資料 3

## 1年間の活動のまとめー成果と課題ー

	【令和3年度の成果・課題等】	【令和4年度の重点】	【成果と課題】
教科指導面	県総合センター提携の研究公開において「松陽プライド」の9つの力を研究授業に取り入れ、また、ICT活用は支援員の協力を得て研修を実施した。今後は、日常的にICTを活用した指導を行う。	「指導と評価の一体化」を実現する。そのために、新しい学習評価を通して、教師が指導の改善を図るとともに、生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする。	中間考査を振り返りの期間としたことにより、考査がゴールではないという意識付けができた。また、授業等にパフォーマンス課題を取り入れた結果、創造力に自信があると回答した生徒の割合が向上した。
生活指導面	感染状況を見極めながら可能な限り教育活動を実施したことで、生徒に学校全体のまとまりや学年の連帯等を実感させることができた。分散登校時等にも家庭と連携をとり生徒のケアに努めた。	文化祭・体育祭等の生徒の活動を重視し、生徒一人一人の個性を伸ばす体制づくりをする。上伊集院駅周辺のボランティア活動、松陽台団地での清掃作業など地域に愛される学校を目指す。	感染状況を見極めながら、今年度は文化祭は川商ホールで、体育祭も全学年で実施し、学校全体のまとまりや学年の連帯等を実感させることができた。今後は時代に合わせながら校則の見直し等を進めたい。
進路指導面	各科・コースにおいて生徒の意欲と特性を最大限活かした進路指導を行い、国公立推薦入試では一定の成果を得た。新教育課程に向けては評価の在り方を確立していく必要がある。	個別最適な学びを通じて、生徒の「個性」が「強み」となる指導をより一層強化し、国公立大学進学率の上昇を目指す。新教育課程1年目の本年度は「指導と評価の一体化」への取り組みを強化する。	生徒の強みを最大限活かした進路指導を行い、国公立推薦入試では一定の成果を得た。個別最適な学びを通して全生徒がG P (卒業時に身に付けさせたい資質・能力)を獲得できるよう指導の強化・連携を図る。
施設設備面	本年度の図書館棟の外壁工事は無事終了した。See-Smileを全職員で有効に活用し会議の回数削減につながった。タブレット端末活用については回線環境が改善する来年度に向け、実践事例を研究していく。	管理棟部分の外壁工事が年度末にかけて実施される予定である。尚、築40年が経過し、施設・設備ともに経年変化による不具合が多くなっている。学校運営に支障をきたさぬよう補修等による維持管理に努める。	5年計画の2年目である管理棟の外壁工事は順調に進んでいる。放送室のCD設備を新調し高校入試等に備えることができた。校内の樹木剪定にも適宜取り組み、生徒・職員の安全に努めていきたい。
その他	上級学校説明会での現役生徒から中学生へのメッセージ及びHP等の刷新は志願者増に一定の成果があった。感染状況が収束すれば本校の特色を活かし、地域や小中学校との交流等も実施したい。	地域の小中学校や行政機関等と積極的に連携し、地域の活性化に取り組むとともに、上級学校説明会での生徒スピーチやビデオメッセージ等を通して、各学科・コースのPRに努める。	吹奏楽部が地域の中学校で演奏会を行い、また、書道部が松元支所の要請で全日本卓球選手権大会に作品提供するなど地域貢献ができた。今後も、連携を深め本校の特色を打ち出しPRに努めていきたい。